

(様式第1号)

平成30年10月30日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領域名：認知症に関する領域  
科目名：認知症のある人への生活支援・連携  
単位数：2単位  
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人静岡県介護福祉士会  
団体事務所の所在地：〒420-0856  
静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階  
電話：054-253-0818  
FAX：054-253-0829  
E-mail：shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：一般社団法人静岡県介護福祉士会  
申請責任者：会長 及川 ゆりこ



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年 10月 30日
申請団体名	一般社団法人 静岡県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 及川 ゆりこ
申請責任者職名 申請責任者氏名	認定介護福祉士養成研修担当 理事 水野 公智
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階 Tel: (054)-(253)-(0818) Fax: (054)-(253)-(0829) E-mail: shizukai@cy.tnc.ne.jp
申請対象の領域	領域名: 認知症に関する領域
科目名 (単位数)	科目名: 認知症のある人への生活支援・連携 (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認知症に関する領域	
科目名	認知症のある人への生活支援・連携	
(1)提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症のある人が地域において自立した生活を営めるように実践的な知識と技術を獲得させるとともに、他の介護職への指導及び認知症のある人を取り巻く環境を形成する他職種や地域との連携を通じて支援していける力を育成する。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症に関する生活支援に必要な医療的知識を習得し、他者に説明できる。</li> <li>認知症の生活支援に必要な知識・技術を習得し、実践できる。</li> <li>認知症におけるリハビリテーションの重要性を理解し、他者に説明できる。</li> <li>認知症支援に関する社会制度、政策等を理解し、他者に説明できる。</li> <li>認知症のBPSDを理解し、よりよい対応ができる。</li> <li>症状や使用している薬等から利用者の状態を分析し、適時・適切なケア方法や医療等の他職種連携の必要性について判断できる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症（MCI、アルツハイマー病の認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、若年性認知症等）について <ul style="list-style-type: none"> <li>・その機序、主な症状、生理学的要因、診断・治療、経過・予後、よく使われる薬、生活上の留意点</li> </ul> </li> <li>○ 認知症の生活支援に必要な知識・技術（リハビリテーションを含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患別、ステージ別アプローチ</li> <li>・パーソン・センタード・ケア等の理解</li> <li>・環境整備</li> <li>・BPSDに対応できるより良いケアの理解</li> <li>・家族介護者への支援</li> </ul> </li> <li>○ 認知症支援に関する社会制度等</li> <li>○ 他職種連携等の基礎的な知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関するアセスメントツール（DASC-21、Zarit8、DBD13、HDS-R）</li> <li>・医療職との連携</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前課題1 自職場のある地域の認知症の方に対するサービス資源について調べ、レポートにまとめる。（1,200字程度）（3時間）</p> <p>事前課題2・3 自職場のある自治体の認知症施策を調べレポートにまとめる。また、そのことに対する意見をまとめる。（各800字程度）（2時間）</p> <p>事前課題4 「新オレンジプラン」と「MCI」について調べ、理解する。（2時間）</p> <p>事前課題5 現在対応しているあるいは対応した認知症の事例について、その人物像とケアプランの内容をまとめる。（様式は自由）（1,200字程度）（3時間）</p> <p>1. 認知症に関する医療的知識、認知症の症状や使用している薬等を理解し、生活支援の在り方を検討する。（講義2時間 演習1時間）</p> <p>(1) 認知症の種類</p> <p>①認知症の種類（MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症）ごとの機序、主な症状、生理学的要因、診断・治療、経過・予後、生活上の留意点</p> <p>(2) 症状の理解と本人の状況の理解</p> <p>①中核症状とBPSDの理解</p> <p>(3) 認知症の人が抱く心理的ニーズの理解</p> <p>①パーソン・センタード・ケアの理解</p> <p>2. 認知症の人と家族の支援（講義1時間 演習1時間）</p> <p>(1) 認知症の人と家族の負担感と支援のズレを理解する。</p> <p>(2) 家族支援のためのアプローチの実際を理解する。</p>

	<p>・リハ職との連携</p>	<p>3. 認知症支援に関する社会制度（事前課題4） （講義 1.5時間 演習1.5時間） （1）認知症ケアの歴史から制度の変遷を理解する （2）認知症の人当事者の声を反映した政策 ①新オレンジプラン ②認知症初期集中支援チーム ③認知症ケアパス （3）認知症の人と共に作る社会について</p> <p>4. 認知症の人が抱く心理的ニーズについて、認知症の人が置かれている状況が「ニーズが満たされていない状況」か「ニーズが満たされていない状況」の背景について事例（事前課題2）を使い理解する。 （講義 1時間 演習 1時間） （1）認知症の人が抱く心理的ニーズの理解 （2）アセスメントにより、ニーズを満たすための課題を明らかにする。 （3）疾患別、ステージ別アプローチ</p> <p>5. 認知症の人を支援するための多職種協働について（講義 1時間 演習2時間） （1）認知症ライフサポートモデルについて （2）多職種協働（医療職、相談援助職、リハ職、行政、地域住民）との演習</p> <p>6. 認知症の人への環境アプローチについて （講義1時間 演習1時間） ・物理的環境・社会的環境・精神的環境について理解し、その改善を考える。</p> <p>7. まとめ 試験及び解説（1時間） ○事後課題（5時間） 講義・演習の内容を踏まえ、認定介護福祉士として、自職場において①認知症のある人や家族にどのようにかかわるべきか。②多職種、地域とどのように連携すべきか。について、自職場で検討しそれぞれ1,200字程度でまとめる。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■集合研修 ■課題学習</p>	<p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前課題として、レポート課題を5種課す。事後課題としてレポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
<p>研修時間</p>	<p>30 時間（集合研修 15 時間、課題学習 15 時間）</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻又は早退については 30 分を上限として認める。（レポート課題あり）</p> <p>○修了評価は、①講義で学んだ基礎理論に関する筆記試験（50 問）（40%） ②事後課題（40%） ③講義・演習への参加貢献度及び理解度等（20%）として、100 点満点中 80 点以上を A 評価、70～79 点を B 評価、60～69 点を C 評価、それ未満の場合は D 評価とする。 ①が D 評価の場合は再試験（本試験同様とする）を行う。 ②が D 評価の場合は同じ課題を再提出し、①②共に C 評価以上とならなければ</p>	

	<p>ば修了を認めない。</p> <p>○集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<p>○ 該当科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</p> <p>○ 修士課程を修了していることが望ましい</p> <p>○ 在宅支援の経験がある医師または看護師が望ましい</p> <p>医師：大学講師以上または学会認定専門医以上が望ましい</p> <p>看護師：大学講師以上または「認定看護師」以上の資格を所持していることが望ましい</p>
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	特になし
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>1) 講義で学んだ基礎理論に関する筆記試験（50問）（40点）</p> <p>2) 事後課題の評価（40点）</p> <p>①自職場の現状や何が課題となっているかを分析し、研修で学んだ家族の負担やその支援方法が適切に用いられた関わりを考察しているか。</p> <p>②自職場の現状を整理し、研修で学んだ多職種協働のあり方を踏まえた連携についてのまとめになっているかを評価の観点とする。</p> <p>3) 講義・演習への参加貢献度及び理解度等（20点）</p> <p>以上の修了評価の内容について①を4割、②を3割、③を3割として100点満点中80点以上をA評価、70～79点をB評価、60～69点をC評価、それ未満の場合はD評価とする。A～C評価で修了とする。</p> <p>①がD評価の場合は再試験（本試験同様とする）を行う。</p> <p>②がD評価の場合は同じ課題を再提出し、①②共にC評価以上とならなければ修了を認めない。</p> <p>修了評価は以下により行う。</p> <p>1) 出席状況が修了要件を満たすこと。</p> <p>2) 演習において発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。</p> <p>3) 筆記試験（50問、100点満点中60点以上合格）追試験は本試験同様とし60点以上に達するまで実施する。</p> <p>4) 事後課題</p> <p>この課題の評価がA～Cであること。D評価の場合は再提出を求め、C以上の評価を得なければならない。</p> <p>100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価で修了とする。</p> <p>D評価の場合は合格とする。不合格者は合格となるまで追試験としてのレポート課題を課す。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名（講師1名） ファシリテーターは1～2名配置する。認定介護福祉士又は資格取得後10年以上の介護福祉士とする
開催場所（都道府県）	静岡県総合社会福祉会館シズウエル（静岡県）

## コマシラバス

【集合研修】 具体的なコマシラバス本科目に関しては1時間を45分換算とする。

2日間で15時間=11.25時間以上(11.75時間)

1日目【8.3時間】

【遠藤先生】

区分	プログラム	時間	内容
1コマ目	認知症の理解①(講義)	9:30~11:00	90 ○認知症(MCI、アルツハイマー病の認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症等)の病態生理と臨床診断 ・その機序、主な症状、生理学的要因、診断、治療、経過、予後、よく使われる薬、生活上の留意点等理解する。 ・認知症の疫学、定義、用語について理解を深める。 ・認知症や類似した精神疾患の症状と病態及び検査方法について理解を深める。 ○認知症をきたす疾患と治療 ・認知症治療の概要と非薬物療法及び薬物療法について理解を深める。 ・認知症や認知症状をきたす疾患の特徴と治療について理解を深める。
	休憩	11:00~11:10	
	認知症の理解②(演習)	11:10~11:55	45 ・認知症で認められる認知機能障害及び認知症の行動・心理症状(BPSD)について理解を深める。
	昼食休憩	11:55~12:55	
2コマ目	認知症の人と家族の支援(講義)	12:55~13:40	45 ○認知症の生活支援に必要な知識・技術 ・認知症の人が抱く心理的ニーズの理解 ・環境調整 ・家族介護者への支援
	認知症の人と家族の支援(演習)	13:40~14:25	45 ○認知症の生活支援に必要な知識・技術 ケース検討(事前課題の事例)
	休憩	14:25~14:35	
3コマ目	認知症支援に対する社会制度等(講義)	14:35~16:05	60 ○認知症ケアの歴史から制度の変遷を理解する。 ・認知症の人当事者の声を反映した政策 ・新オレンジプラン ・認知症ワーキンググループ
	休憩	16:05~16:15	
	認知症支援に対する社会制度等(演習)	16:15~17:45	75 ○認知症ケアの歴史から制度の変遷を理解する。 ・事前課題の調査を参考に地域のサービスについて、情報共有
	まとめ		

2日目【7時間】

【助川先生】

区分	科目名	時間	内容
4コマ目	認知症の人が抱く心理的ニーズの理解（講義・演習）	9:30～11:00	90 ○認知症に関するアセスメントツール（DASC-21、Zairt8、DBD13、HDS-R） ・認知症の人と家族を把握する上で必要なアセスメントツールを利用して、本人のニーズを理解し、課題を明らかにできる。 ○疾患別、ステージ別アプローチ ・様々な状況において、生活支援の留意点を理解し、問題解決のアプローチについて理解を深める。
	休憩	11:00～11:10	
5コマ目	多職種連携等の基礎的な知識	11:10～11:55	45 ○ケアにおける組織内外の連携 ・認知症ケアにおける組織内外の連携を推進するための方策について理解を深める。 ・認知症ケアにおける観察・記録のポイントを理解した上で、認知症の人が継続した生活を送れるように多職種（医療職・リハ職等）情報共有し連携していく。
	昼食休憩	11:55～12:55	
6コマ目	多職種（医療職、相談援助職、リハ職、行政、地域住民）との連携の課題と対応（演習）	12:55～14:25	90 ○認知症ケアにおける情報共有 ・観察、記録、情報共有のポイントを理解し、多職種との検討の場での役割を行使できる。
	休憩	14:25～14:35	
7コマ目	認知症の人への環境アプローチの意義について（講義・演習）	14:35～15:35	60 ・物理的環境、社会的環境、精神的環境について、事例を通じてその重要性を理解する。 ・環境改善の演習
	休憩	15:35～15:45	
	知識と実践の統合 修了試験	17:30～18:30	60 ・全体の振り返り ・筆記試験

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2019年8月10日
	② 2019年8月11日
	③
開催場所 (会場)	① 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町1-70)
	② //
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○認知症のある人への生活支援・連携 遠藤英俊氏の略歴 1982年滋賀医科大学卒 1987年名古屋大学医学部大学院修了 1990年米国国立老化研究所客員研究員 1993年国立療養所中部病院内科医長 2004年国立長寿医療センター包括診療部長 2010年独立行政法人国立医療研究センター 内科総合診療部長 老年病専門医、日本認知症学会理事、日本老年精神医学会理事 日本ケアマネジメント学会理事、日本高齢者虐待防止学会理事、名城大学特任教授</p> <p>著者 「認知症・アルツハイマー病がよくわかる本」 (主婦の友社) 『「かかりつけ医」のための 認知症診療ガイド』 (医薬ジャーナル社) 『高齢者の芸術療法』 (弘文堂)、『地域回想法ハンドブック』 (河出書房新社) 他</p> <p>助川未枝保氏の略歴 ・2003年大正大学大学院 社会福祉学修士 ・1977年奈良女子大学大学院 理学部生物学修士 ・千葉市療育センター相談員 1981年～1987年 ・船橋市東部在宅介護支援センター長 1995年～1998年 ・船橋市前原在宅介護支援センター長 1998年～2005年 ・社会福祉法人広文会 特別養護老人ホームじょうもの郷 施設長 2005年～2012年 ・株式会社千葉福祉総合研究所 代表取締役 2012年～2016年 ・船橋市三山・田喜野井地域包括支援センター長 2016年～現在</p> <p>主な著書： 「すぐ役立つ！認知症の治療とケア」第2版基本から実践まで (共著) (2017年)</p>



	担当する講義等 事後課題評価 遠藤英俊氏 助川未枝保氏 経歴等は同上
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会 (非常勤:6名) 委員会事務局 (担当事務局員:常勤2名・非常勤2名)  認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連間や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	平野 美智子
機構問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	平野 美智子
受講問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点で、その科目の修了証明書を発行し全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ (会長)
管理担当者氏名	平野 美智子 (事務局長)